

特集2

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入

再生可能エネルギーの導入状況

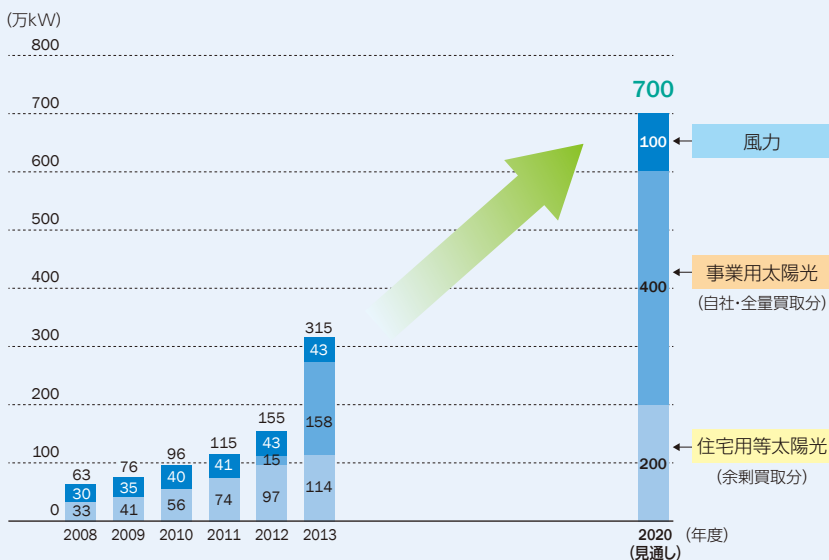
- 当社は、国産エネルギーの有効活用、地球温暖化対策面で優れた電源であることから、太陽光・風力・バイオマス・水力・地熱などの再生可能エネルギーの積極的な開発、導入を推進しています。
- 2012年7月に固定価格買取制度が開始されて以降、特に太陽光発電が急増しており、2014年3月までの太陽光発電の導入実績は、制度開始時点と比べ、192万kW増加し、累計で272万kW(3.4倍)。風力発電についても43万kWとなり、太陽光・風力発電を合わせた導入実績は、累計で315万kWとなっています。
- 太陽光・風力の大量導入にあたっては、今後も引き続き、電圧や周波数が安定した高品質な電力を供給できるよう、系統安定化に関する技術開発等を推進していきます。

再生可能エネルギーの導入量

	2011年度		2012年度		2013年度	
	設備量 (万kW)	電力量 (億kWh)	設備量 (万kW)	電力量 (億kWh)	設備量 (万kW)	電力量 (億kWh)
太陽光	74	4	112	7	272	19
風力	41	7	43	7	43	7
水力(揚水除く)	184	59	184	62	184	48
地熱	21	14	21	14	21	14
バイオマス等	25	6	20	6	21	4
合計	345	89	379	95	541	92

(注1) 設備量については各年度末時点の数値
(注2) 四捨五入により合計が合わない場合がある

太陽光・風力発電導入見通しと実績



佐世保メガソーラー発電所(10,000kW)



長崎県佐世保市の旧相浦発電所跡地において開発し、2014年3月より営業運転を開始。

※当社グループ会社の九電みらいエナジー(株)が事業を実施

新会社「九電みらいエナジー株式会社」の設立

- お客さまからの再生可能エネルギー（以下、再エネ）の幅広いニーズにワンストップで対応し、更なる開発推進を図るため、当社再エネ開発部門及びグループ会社の再エネ事業を集約した新会社を2014年7月に設立しました。

九電みらいエナジー株式会社代表者インタビュー

九州電力本体と連携のもと、地域社会に対し、責任ある事業者として再エネの普及拡大に努めます

Q. 九電本体ではなく、グループ会社を集約して再エネ事業を展開するねらいは

A. グループ会社が再エネ開発に特化することで、お客さまからの再エネへの幅広いニーズにワンストップで迅速かつ柔軟に対応できるとともに、これまで各社個別に行っていた再エネ事業を集約することで、効率的な事業運営が期待できます。また、FIT（再生可能エネルギーの固定価格買取制度）を活用した収益を最大限再投資することで更なる再エネの普及拡大にもつながると考えております。

Q. 新会社の強み、特徴は

A. 再エネに関する調査・計画から建設・運営管理までの一貫した技術・ノウハウを保有することにより、様々な再エネ電源（太陽光、風力、地熱、バイオマス、水力）に係る発電事業を展開できること、また、他の発電事業者への一括請負サービスや、工場等でのオンサイト発電事業など関連サービスもお客さまに提供できる点にあると考えております。

Q. 今後の成長戦略は

A. 今後の市場の魅力度や現行の九電グループにおける保有ノウハウ活用の観点から「太陽光、風力、地熱」を重点戦略事業と位置づけ、九州域外、海外展開も視野に入れた事業活動を進め、設立10年で現在の7倍となる70万kWの導入を目指します。



九電みらいエナジー(株)
稲山代表取締役社長

【新会社の概要】

- ・会社名 九電みらいエナジー(株)
- ・資本金 6億4,545万円
- ・出資比率 九州電力(株)100%
- ・設立日 2014年7月1日
- ・代表取締役社長 稲山 泰治
- ・社員数(設立時) 96人

※当社再エネ開発部門、西日本環境エネルギー(株)、(株)キューデン・エコソルの再エネ事業を集約して設立

事業概要

